

# 経済・金融フラッシュ

No.08-038 2008/06/06

## 6月 BOE 金融政策委員会は据え置き～インフレ警戒強化、ポンド安は容認

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 主任研究員 伊藤 さゆり

TEL:03-3512-1832 E-mail:ito@nli-research.co.jp

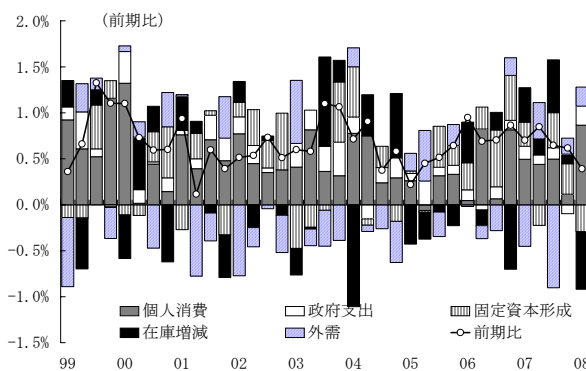
### 1. 6月MPCは政策金利を5%で据え置き

( 景気の減速傾向は強まる一方、インフレ率は上振れ )

6月4日、5日に開催されたイングランド銀行(以下、BOE)の金融政策委員会(MPC)は、先月に続き政策金利の5%での据え置きを決めた。

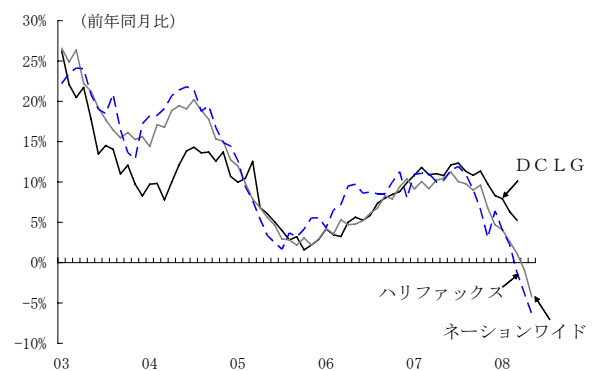
前回理事会後の経済統計では、先月23日のGDP統計で1～3月期の成長率が前期比0.4%と長期平均を下回ったのは投資の落ち込みと在庫の減少が主因であり(図表1)、調整色が深まる住宅市場でも価格の下落が続き(図表2)、利下げが明確な効果を及ぼしていないことなどが確認されている。

図表1 イギリスのGDP成長率



(資料) ONS

図表2 イギリスの住宅価格



(資料) ONS、ハリファックス、ネーションワイド

その一方、4月の消費者物価上昇率(以下、CPI)はインフレ目標プラス1%となる3%まで加速(図表3)、14日に公表された5月の「インフレ報告」で目標を大きく上回るCPIの推移は09年初まで続くとの見通しが示された(後述)ことから、今月の据え置きは大方の予想どおりであった。

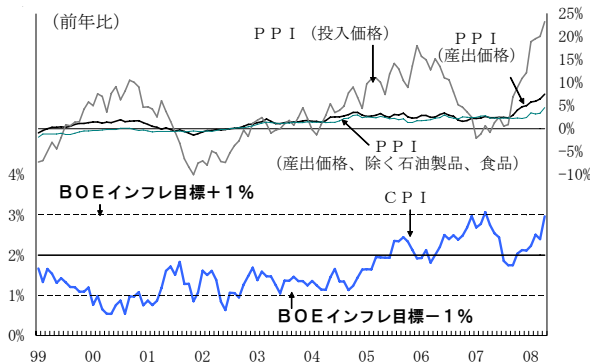
6月MPCの議事録は18日の公表が予定されている。追加利下げ票を投じたのは、5月

と同様に、「景気後退のスパイラル回避」のための前倒しの利下げの必要性を主張している  
ブランチフラワー委員のみであった可能性が高い。

国際商品の価格高騰が長期化の様相を呈する中、BOEは、当面、政策金利の据え置きを継続、この間の利下げと4月に導入した流動性対策<sup>(注)</sup>の効果を見極める段階に入ると思われる。インターバンク市場におけるリスク・プレミアムの指標となる同一期間のインターバンク金利と国債とのスプレッドは、流動性対策公表後に幾分低下したものの、なお開いた状態が続いている(図表4)。

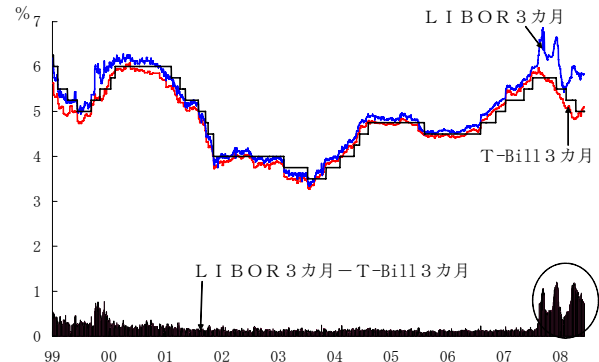
(注) 詳しくは「経済・金融フラッシュ No.08-022」をご参照下さい。

図表3 イギリスのインフレ率



(資料) ONS

図表4 BOE政策金利とTEDスプレッド



(資料) BOE、Datastream

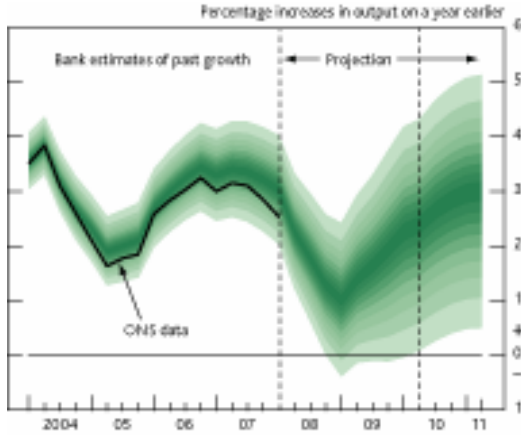
## 2. 「インフレ報告」は成長見通しを下方、物価見通しを上方に修正

先月公表された5月の「インフレ報告」では、市場が織り込んでいる金利の推移(年内50bpの利下げ)を前提に、成長率の見通しを幾分下方修正する一方、エネルギー、食品価格の値上がりとポンド安による物価上振れ幅は、前号での見通し以上に大きく、且つ、長期化すると見通しが示された(図表5~6)。

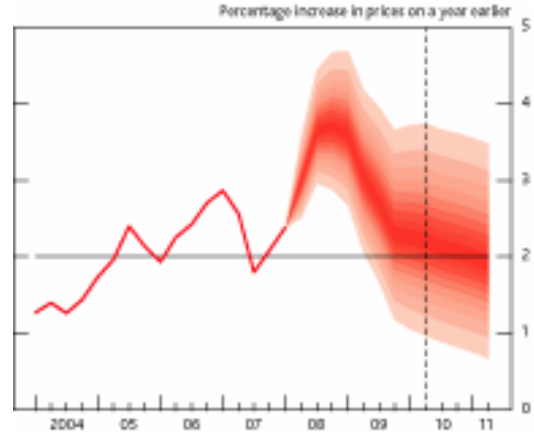
また、インフレ報告公表時の記者会見でキング総裁は、イギリス経済は現在「不均衡の調整過程」にあるとの認識を示した上で、「金融政策で調整を妨げることはできないし、そうすべきでもない」とし、中期的なインフレ目標の達成に集中する姿勢を強調、大幅利下げや早期追加利下げ観測を打ち消した。

ポンド相場の実効相場下落幅は92年9月のポンド危機時に匹敵するものとなっている(図表7)、キング総裁は、ポンド安は不均衡の調整をサポートするとし容認する姿勢を示している。足もとのポンド安は、イギリスと同じくリバランスの過程にある米国のドルに対する変動幅が小さく、対ユーロでの調整が大きい特徴がある(図表8)。欧州中央銀行(ECB)は5日開催された政策理事会で利上げも検討、7月にも小幅利上げに動く可能性を示唆しており、当面、ポンドの対ユーロ安基調は続く見通しだ。

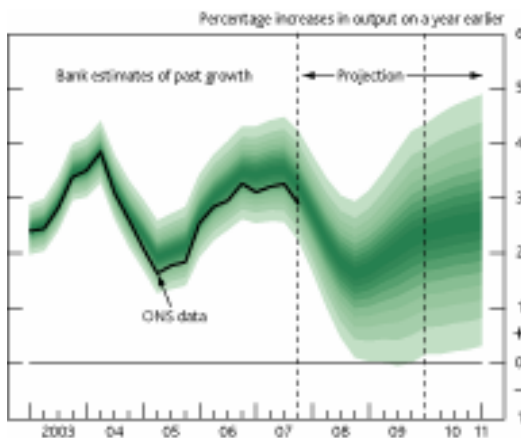
図表5 「インフレ報告」：成長率見通し  
＜5月号＞



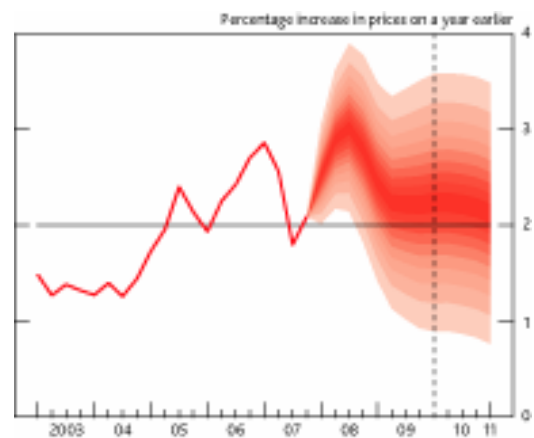
図表6 「インフレ報告」：物価見通し  
＜5月号＞



＜2月号＞

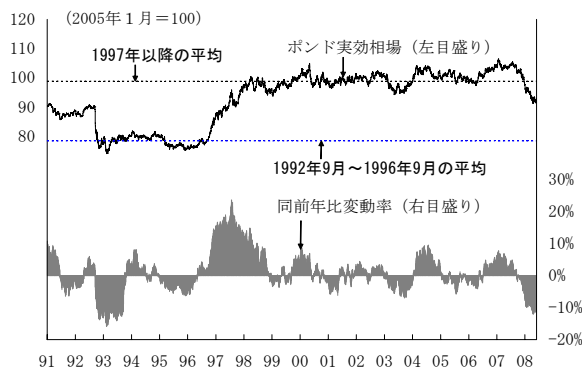


＜2月号＞



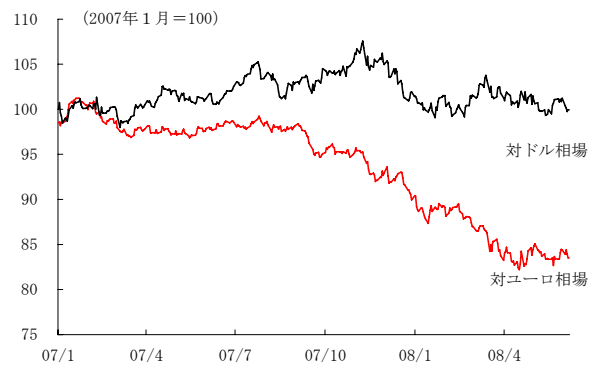
(資料) BOE

図表7 ポンドの実効為替相場



(資料) BOE

図表8 ポンドの対ドル、対ユーロ為替相場



(資料) BOE

(お願い)本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものでもありません。

(Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載)